

活動状況報告書（11月分）

文化芸術コース 田坂 佳那

今月のウィーンは気温がぐっと下がり、月末には少し雪が降りました。こちらでは11月にはすでに街中がクリスマスの雰囲気になりました。建物や路地のクリスマスイルミネーションは10月から既に準備が始まり11月に入るとライトアップされ、いくつかの場所ではクリスマスマーケットがはじまりました。私が通う大学の近くにもクリスマスマーケットやイルミネーションが多数あり、通学路はたくさんの人で溢れるようになりました。ドイツ語を習っている先生からは、オーストリアでのクリスマスのお祝いの仕方やクリスマスに関するお話をいくつも聞かせていただきました。日本との共通点は、日本のサンタクロースのように、こちらではNikolo(ニコロ、ニコラウス)が子どもたちのもとにやって来るということです。驚いたのは、ご家庭にもよると思いますがクリスマスツリーは作りものではなく、本物の大きな木を飾ることがあるということです。日本でもクリスマスを連想するお花として知られるポインセチアは、ドイツ語ではWeihnachtsstern(クリスマスの星)と呼ばれているようで、他にもクリスマスが名前に入ったお花があり、最近はそれらを色々なところで目にします。日本のクリスマスケーキと異なりこちらではクリスマスクッキーを用意するようで、たくさん様々なクッキーをお家で手作りすることもあるそうです。また、私が住んでいるアパートでは来月にクリスマスパーティーが行われるようで、掲示板に招待の案内が貼り出されました。クリスマスをとても大切にしてお祝いをするこちらの方々の文化を、街の景色や会話の中から感じることができました。

今月も引き続き、主専攻のレッスンや履修している授業で器楽伴奏曲や室内楽の曲に取り組みました。友人の代理で、歌のクラスのコレペティションも一度経験することができました。また、修士論文に関する授業も始まり、自分が専門的に研究をしたいことについて考え始める期間にもなりました。授業の他には、フルート科の学生さん達がオーディションを受ける際の伴奏を任せていただけることになり、11月後半からはその準備やリハーサルがはじまりました。今回のこの機会は、私が師事している先生に本番に向けてのレッスンをしていただける初めての機会となったため、先生の音楽や伴奏に対して妥協の無い熱心なご指導に、非常に多くのことを学ぶことができています。また、このオーディションに向けたレッスンとして、フルート科の先生(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のフルート奏者)のレッスンにも伴奏者として同行することができ、沢山のことを学ぶことができました。今回伴奏している数曲はフルート奏者にとって重要なレパートリーなので、私も伴奏者としてレパートリーにできるよう本番に向けて丁寧に仕上げたいと思います。

また、今月はコンサートをいくつも聴くことができました。大学で今学期室内楽を習っている先生が出演されるコンサートや、日本で何度かレッスンを受けたことのある先生コンサート、大学内で行われたマスタークラスを受講生コンサート、大学のチェロ科のクラスコンサートなどに行きました。今月聴きに行くことができたこれらのコンサートはクラシック音楽の枠の中ではありますが多種多様な内容で、自分が学んでいることと密接に関係があるものもあれば、異なる分野や内容のものもありました。どれにおいても新しい発見を得ることができ、自分が学びたいことについてより深く追求することはもちろん大切ですが、自分が感じたことのない感性や解釈に触れる機会をもつことの大切さを実感することができました。

来月にはもう今学期の後半に差し掛かり、大学のクリスマス休暇まではおそらくあっという間に過ぎてしまうのではと思います。ひとつひとつの授業や学びの機会を大切に過ごしたいと思います。



